

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500772
法人名	有限会社 タケタニ
事業所名	グループホーム「まごころ」
所在地	〒856-0817 長崎県大村市古賀島町120-15 (電話)0957-53-2081

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月2日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 6 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	6.75 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階 建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 ~ 31,000 円	その他の経費(月額)	12,120円 + 実費	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大村市立病院・たしる医院・坂口歯科医院・牧山医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

空港の近くに立地し、開放感があり、利便性の良い環境である。運営推進会議の参加者から地域との連携が良い事が窺える。食に関するポリシーがあり、新鮮な材料と手作りにこだわりながら、試食会を実施している。又、外部評価や介護計画の作成を職員と全員で取り組み、ケアの統一と向上に常に努力し、書式等は良いものを積極的に取り入れ、入居者が詩吟・踊り・習字・生け花・温泉入浴等生活を楽しまれる支援をしている。20年度より、共用型通所介護の指定を受けている。又、スプリンクラーの設置を予定し、管理者の豊富な経験と挑戦する前向きな姿勢で、入居者と地域を視野に入れ、常に向上を続けるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を質の向上の一環として、真摯に受け止めており、前回の評価後の改善点として、入り易い玄関周りとなるよう、ホームの入り口に手作りで名前を作り、優しい雰囲気になっている。又、危険物の管理については、見えない場所に直す等、質の向上の為に積極的に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価票を配布し、期限を決めて記述し、後に管理者が集約し、実施状況を詳細に記述している。評価項目の理解を共有する事で、職員のケアの向上に活かす取り組みがある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は現在までに6回開催され、H20年2月に1回予定されている。町内9名(自治会長を含む)・民生委員2名・家族6名・市役所1名・施設側を構成メンバーとし開催している。多くの出席者により、ホームの現状や入居者の様子について、質疑応答があり、活発に進行されている。前回は食事の試食会をする等、様々な試みをされ、向上に繋がる会議が開催されており、地域の住民から認知症を理解して頂き、成果が表れている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、入居者の顔写真を載せ、個別の状況を記述したお便りを発行している。家族は殆ど(9名中8名)が利用料の支払いを直接、持参されており、その都度、会話をし傾聴の心意気をアピールしており、家族からはおむつ代や介護度の変更が生じてもお願ひ出来るか等の相談があり、説明する事によって安心へと繋げている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表は地域で自営業をされていた事があり、地域の人が気軽に立ち寄りコミュニケーションが取れており、自治会の班長をする事もある。ホーム開設後は地域の資源(米・野菜の購入)を利用しながら一般家庭と変わらない、自然な近所付き合いが出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念である「1・家庭的な楽しい生活、2・安心と尊厳のある暮らし、3・皆が家族の一員であること」に運営推進会議での話し合いや20年度から指定を受けた共用型通所介護を視野に入れ、「4・地域の皆様と共に」の文言を追加し、地域の中で様々な人との関わりを持ちながら、普通に暮らせる事を支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と介護目標を見易い場所に掲示し、週1回は理念を声に出して言う事で、再確認をしている。常に「迷った時は理念に返って」を指導し、明るく接する事をモットーにケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表は地域で自営業をされていた事があり、地域の人気が気軽に立ち寄りコミュニケーションをとり、自治会の班長をする事もある。ホーム開設後は地域の資源(米・野菜の購入)を利用しながら、一般家庭と変わらない、自然な近所付き合いが出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を真摯に受け止め、前回評価で挙げた課題(入り易い玄関周り・危険物の管理)に早急に取り組み改善されている。職員一人ひとりに自己評価票を配布し記述して提出後、管理者が集約し詳細な記述をしている。評価項目の把握と共有を図り、職員の質の向上に活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在までに6回開催され、H20年2月に1回予定されている。町内9名(会長を含む)・民生委員2名・家族6名・市役所1名・ホーム側が構成メンバーであり、多くの参加者により、質疑応答の充実した、ホームの向上に繋がる会議を開催している。地域の人に認知症を理解して頂き成果が表れている。		

グループホーム「まごころ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、介護支援相談員がホームを訪問したり、グループホーム連絡協議会に行政担当者の参加があり、顔馴染みで様々な情報や会話ができる関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の写真とその人の状況を個別にお知らせしている。健康状況に関しては必要時に連絡している。金銭管理は家族に、出納帳と領収書の確認をお願いし、確認印を受取り、明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料は、9名の入居者の内8名がホーム持参で、その都度密接に話し合い、傾聴に心掛けている。家族からは、オムツの使用料や介護度の変更が生じて、ホームで見て貰えるか等の相談があり、説明し理解に繋げている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は無く、職員採用時は見学をしながら決定している。職員には常に「疲れていては良いケアが出来ないので休んで下さい」と身体面に配慮し、休憩室の確保等、働きやすい環境を提供し、交代は入居者のダメージにならないようにさりげなく行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はその都度行ける人が参加し、報告書と口頭で職員に共有を図っている。内部研修は毎月様々な問題点や知りたい情報について勉強をし、職員のスキルアップに繋げている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市グループホーム連絡協議会で 事業所総合評価部、広報部、研修部のいずれかに所属している。又、職員は[各駅停車]に参加し、学習や他の事業所と交流を図り、ケアの現場で実践している。		

グループホーム「まごころ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各事業所や病院から、入居希望者の紹介を受け、電話でホームの特徴や実施状況を伝え、直接、面接や施設見学に來所して、納得しての入居へと導いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は長い経験の中で様々な知恵を持たれ、料理の味見や文字等、職員と一緒に生活する事で素晴らしさに励まされたり驚かされる事が多く、支え合いながら生活を楽しんでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴は基本情報(入居時に記入)や嗜好調査やサマリーで把握し、日々のケアで思いを把握し、その人の心理面に配慮しながら、本人本位の生活を支援している。しかし、総合的に全体像が把握出来る書類はなく、職員間での共有が困難である。		入居者がどのような姿であるかや、言葉かけや行動を考慮し、実際のケアで知り得た情報を書き込んだ、ケアのキーポイントになる書式を作成され、職員間で共有を図り、職員の交替時等に活用される事が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアに携わる全員が、介護計画に関わる事に重点を置き、全職員で案を出し、家族が参加する担当者会議を開催している。又、入居者やその家族の主訴に沿った、実践可能なサービス内容の介護計画を作成し、家族の同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は入居者の生活を維持する主軸であると考え、分かり易い、充実した書式を導入し、期間設定(短期1~2ヶ月・長期3~4ヶ月)し、日々計画の番号を引用した記録やモニタリングシートを活用し、担当者会議で現状に即した計画を作成している。		

グループホーム「まごころ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族が安心出来る支援を目指し、医療連携・病院受診・理美容サービス・温泉浴・詩吟教室(外部の講師による)・訪問マッサージ・カラオケ・日舞・テーマソング・多目的ホール等、多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。又、20年より共用型通所介護の指定を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医や協力医療機関とは密接な関係で、24時間相談・指示が仰げ、安心した生活が維持出来る連絡体制が確立している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに看取りの実施はない。医療連携に伴う看取りの指針を明確にし、終末期には家族・医師・施設の3者で話し合い、その人にとって一番良い方向を決めていく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	耳の遠い入居者には言葉掛けには尊厳を守り、会議で個人名でなく居室の名前で話し合う等、意識している。個人情報の漏洩にならないよう、書類面にも注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間を統一せず、入居者の状態で本人に合わせている。その人の希望する事を見極めながら、生活して頂く為に、職員の人員体制を工夫し、ゆとりのあるケアを実践している。		

グループホーム「まごころ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に關する一連の作業を一緒にし、全員で食卓を囲み、大家族のような食事風景である。声掛けや介助をしながら楽しい話題で食が進んでいる。又、ホームの畑の作物が食卓を飾る事もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回が基本的入浴日で、日曜日以外は毎日準備をし、失禁時はシャワーで部分浴をしている。入浴回数は勿論であるが、綺麗に洗い、ゆっくり入って貰う事を心掛けている。又、近くの温泉を利用する事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花・習字・詩吟・カラオケ・踊り等それぞれ得意分野で中心となり、楽しんでいる。出来る事は率先してする事で活力を引き出し、行動力を維持する支援を実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によるが、近くの神社やホームの周りの散歩・行ける人は温泉のシルバーカードを作り入浴・ドライブ・花見・ピクニック・買い物と、外出を楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊を頻繁にする入居者はいないが、AM7:00～PM9:00の時間は2～4人体制であり、施錠は行っていない。非常勤を配置しながら人員体制を工夫し、入居者の自由な生活を見守りながら支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や地域住民の協力を得た消火・避難訓練を実施している。毎月のスタッフ会議で自主訓練を実施し、充実を図っている。しかし、非常連絡先一覧表・防災マニュアル・重要事項のバックアップを実施しているが、地震災害や備蓄品に関しては不十分である。		何時如何なる時に災害が発生するか分からないという事を常に念頭に置き、地震等の天災や自然災害に対する訓練の実施と、それに付随する備蓄(約3日位)や持ち出し品の把握をされる事が期待される。

グループホーム「まごころ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しい手作りの食事を提供する事をモットーにして、新鮮な野菜を使った食事を提供している。入居者の嚙下状況に配慮し、ペースト状・刻み・柔らかさに注意を払い、水分量は提供時間を決め、不足しないように支援している。しかし、糖尿病の人には配慮しているが、今までに専門家によるカロリーチェックの実施はない。		訪問時も手作りの美味しい食事を頂き、食に対する取り組みを伺う事が出来た。専門家に現在提供している食事が何カロリーであるか計算して貰い、家族を含めた運営推進会議のメンバーにお知らせされ、食事の取り組みをアピールされる事が期待される。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空港の近くである為、騒音に配慮し2重サッシにし、静かで明るい。外の景色が見えるように、畳の部分には雪見障子がある。居間にはピアノや椅子を配置し、それぞれの移動と休憩が取れる心遣いがある。全体的に少し寒さを感じるが、入居者には足カバー等で工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は板張りに畳が敷かれ、身体の状況に合わせてベットとマットを使い分け、それぞれが普通に生活する事に必要な品々(家具・コンテナ・衣装掛け・椅子・写真等)を持ち込み、居心地の良い部屋作りを支援している。		